

千葉大学 国際教養学部

平成28年4月設置予定



設置認可申請中のため、この資料の内容は予定であり、変更する場合があります

国際教養学部 説明

- 1. 千葉大学の特徴
 - 4つのキャンパス・10の学部
 - 千葉大学の特徴ある施設（紹介ビデオ）
- 2. 千葉大学の特色ある教育
- 3. 国際教養学部の基本構成と特徴
- 4. 国際教養学部で身につく力
- 5. 国際教養学部の教育の特徴
- 6. 国際教養学部のカリキュラム
 - カリキュラムの特徴・授業科目の例・留学の考え方
- 7. 想定される進路

1. 千葉大学の特徴: 4つのキャンパス・10の学部



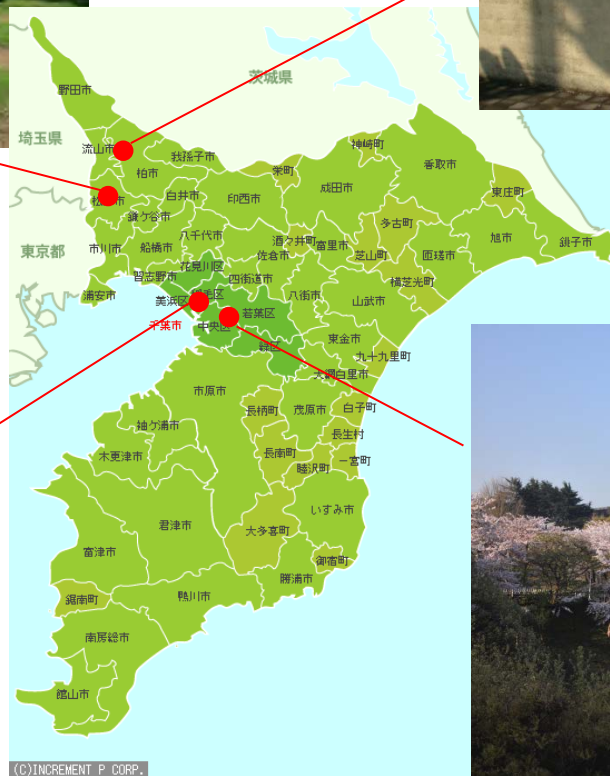
松戸キャンパス
(園芸学部)



柏の葉キャンパス
(環境健康フィールド科学
センター、植物工場)



西千葉キャンパス(メインキャンパス)
(文学部、教育学部、法政経学部、
理学部、工学部、**国際教養学部**)



亥鼻キャンパス
(医学部、薬学部、看護学部、附属病院)

2. 千葉大学の特色ある教育

国が進める大学教育改革の拠点校に選定

○グローバル化を推進する拠点

- グローバル人材育成推進事業(平成24年度)
(国立大学で4校の全学推進型のひとつ)
- スーパーグローバル大学創成支援(平成26年度)
タイプB(グローバル化牽引型:全国37校のひとつ)



○地域との連携を推進する拠点

- 「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度)
(千葉県・千葉市・松戸市・柏市・野田市との連携)



千葉大学のグローバル化

- 千葉大学の国際教育の目標値
 - － 10年後までに留学生受入れ数3,000人
(国の「留学生30万人計画」の1% (H.26.5現在で819名))
 - － 10年後までに派遣留学生1,200人(1学年の50%)
 - － 日本人学生と外国人学生の混住寮建設中
 - 平成28年度から6ターム制という新しい学事暦
 - － 第1ターム (4～5月)
 - － 第2ターム (6～7月)
 - － 第3ターム (8～9月) 集中講義、サマースクール
 - － 第4ターム (10～11月)
 - － 第5ターム (12～1月)
 - － 第6ターム (2～3月) 集中講義、スプリングスクール
- 柔軟な学事暦により、海外体験を促進

3. 国際教養学部の基本構成と特徴

国際教養学部の基本構成

—学部学科構成

- 国際教養学部 国際教養学科 (1学部1学科)

—英語名称

- College of Liberal Arts and Sciences

—学生定員

- 90名

—専任教員

- 46名

千葉大学 国際教養学部

キーワードは **ブレンド**
(混合)

文系・理系のブレンド

多様な国籍のブレンド



国際教養学部の基本理念

世界の課題を日本の力で解決
日本を世界に発信することにつながる

II

専門領域のブレンド(混合)

専門領域を限定しない教育課程

+

世界を舞台に学ぶ

ソーシャルラーニングを基軸とする新教養教育

先進的アクティブラーニング

特色ある授業の実施

千葉大学の有する3つの既存学問領域

人文社会科学

文学部・法政経学部・教育学部

生命科学

医学部・薬学部・看護学部

自然科学

理学部・工学部・園芸学部

学問領域のブレンド

「国際」「日本」「科学」

4. 国際教養学部で身につく力

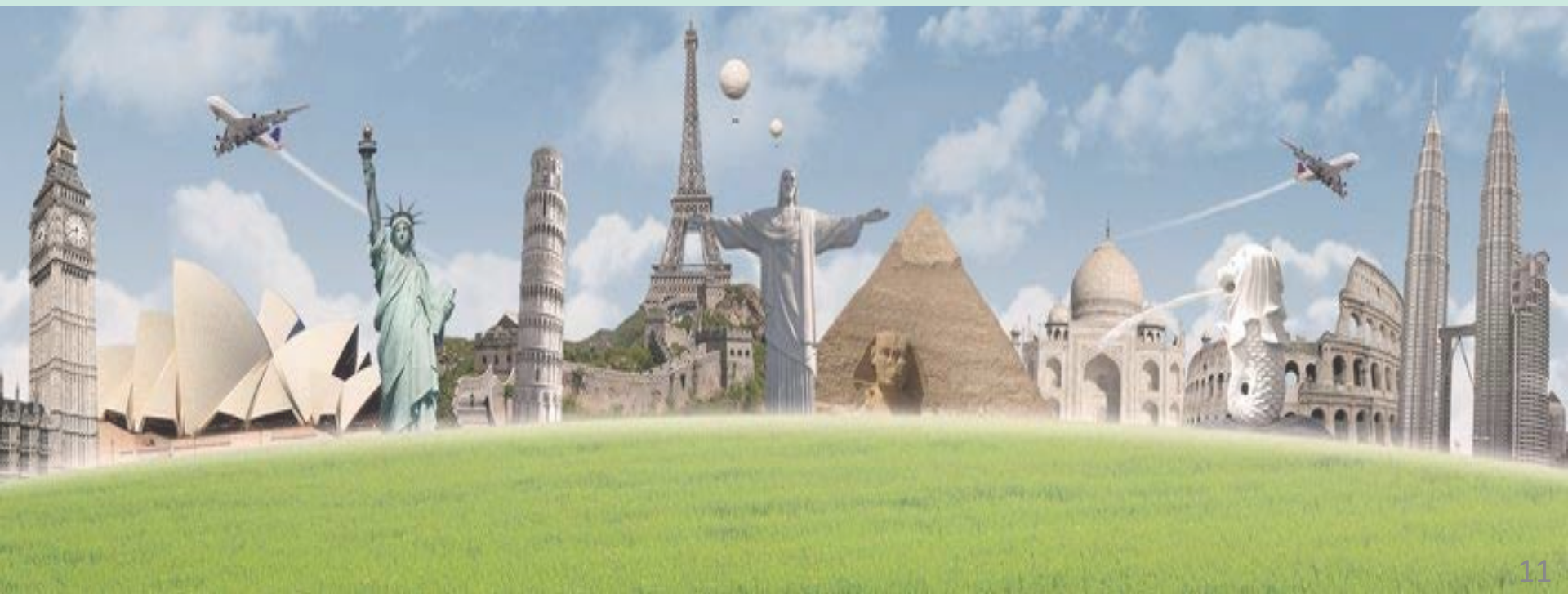
国際教養学部では

「グローバル」「イノベーション」「ブレンド」を通じて、
課題を発見し、必要な知識を選択・統合することにより、
日本の視点から課題を解決する力を涵養するとともに、
その解決策を世界へ発信する力を身につけます

Global

グローバル社会で活躍する人材を育成します

未来を見据えた地球環境との共存、世界経済を支える労働環境と人権など、地球規模で生起する問題ーグローバル・イシューに取り組むという社会的使命を持ちます。



Innovation

新たな価値を創造する人材を育成します

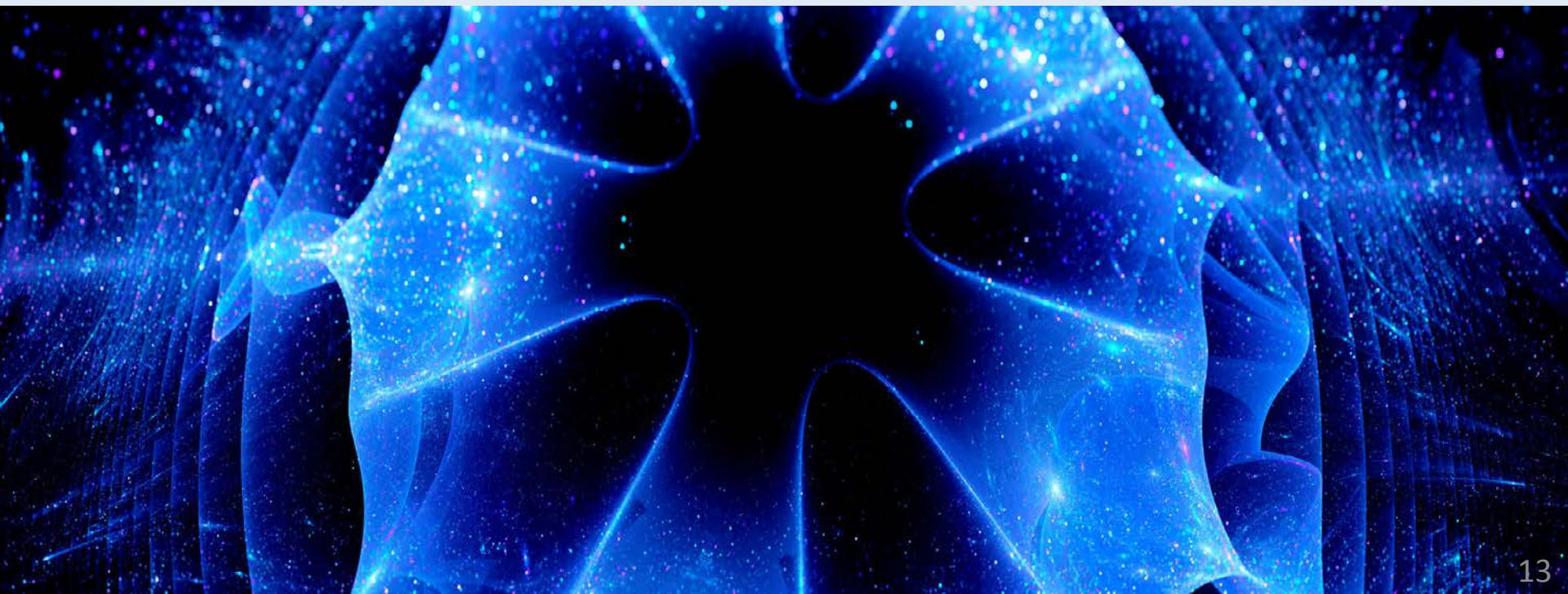
グローバル・イシューについて、日本発の文化、ビジネスや技術を用いて独自の視点から解決する能力を身につけた、「日本発の新国際人」を育成します。



Blend

学問領域をブレンドして学びます

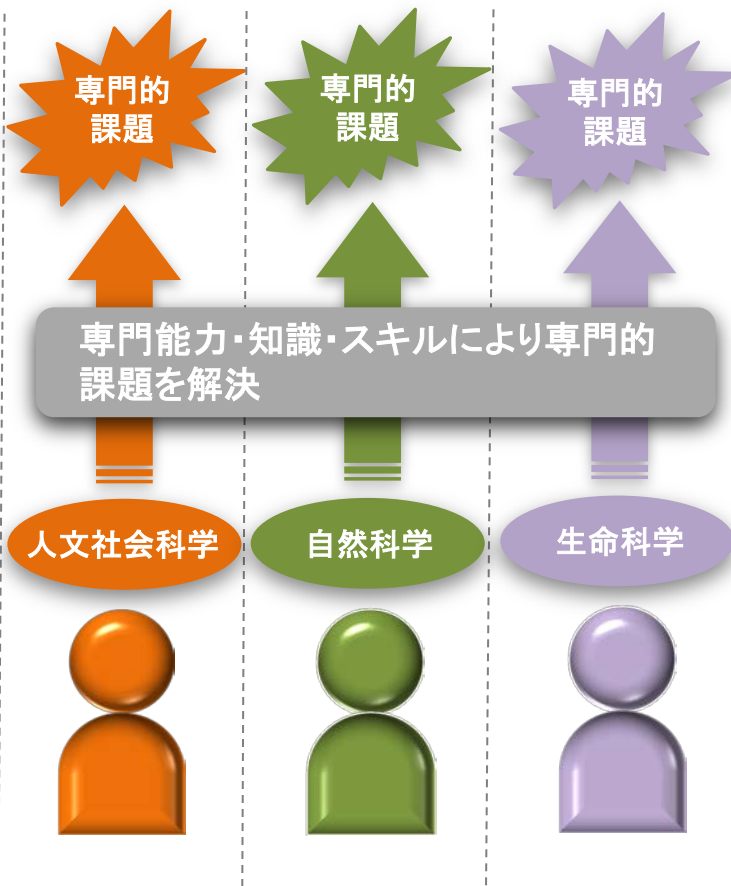
地球社会に日々生起する様々な問題は、既存の学問分野（ディシプリン）単独では解決できないため、それに必要な多様な学問領域を混合（ブレンド）し学びます。



国際教養学部の特門性

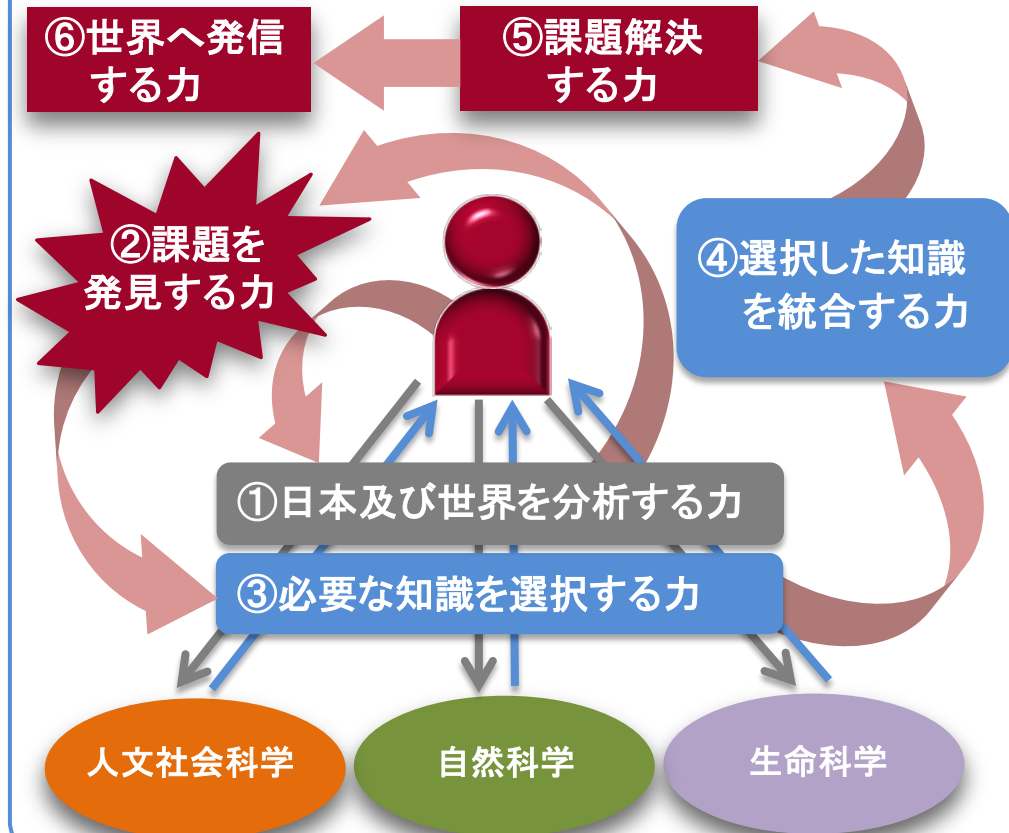
既存学部

当該専門分野に係る課題の解決に必要な
専門能力・知識・スキルを涵養



国際教養学部

日本及び世界に生じている様々な事象を分析して自ら課題を発見し、必要な知識を選択・統合することにより、日本の視点から課題を解決する力を涵養するとともに、その解決策を世界へ発信する力を育成



5. 国際教養学部の特徴

- グローバル人材育成のため留学を重視
- 学生の主体的学びを促進するため、PBL (Project Based Learning) 型アクティブラーニングを実践
- キャンパスにとどまらない学修、社会に貢献する学修
⇒社会的学び (ソーシャルラーニング)
- 学生一人一人の志向に合わせたテーラーメード教育
- 学生が自己の専門性を自主的に設計 (自己設計専攻)
- 教員の指導とSULA (Super University Learning Administrator) という教育支援専門職の助言

6. 国際教養学部のカリキュラム

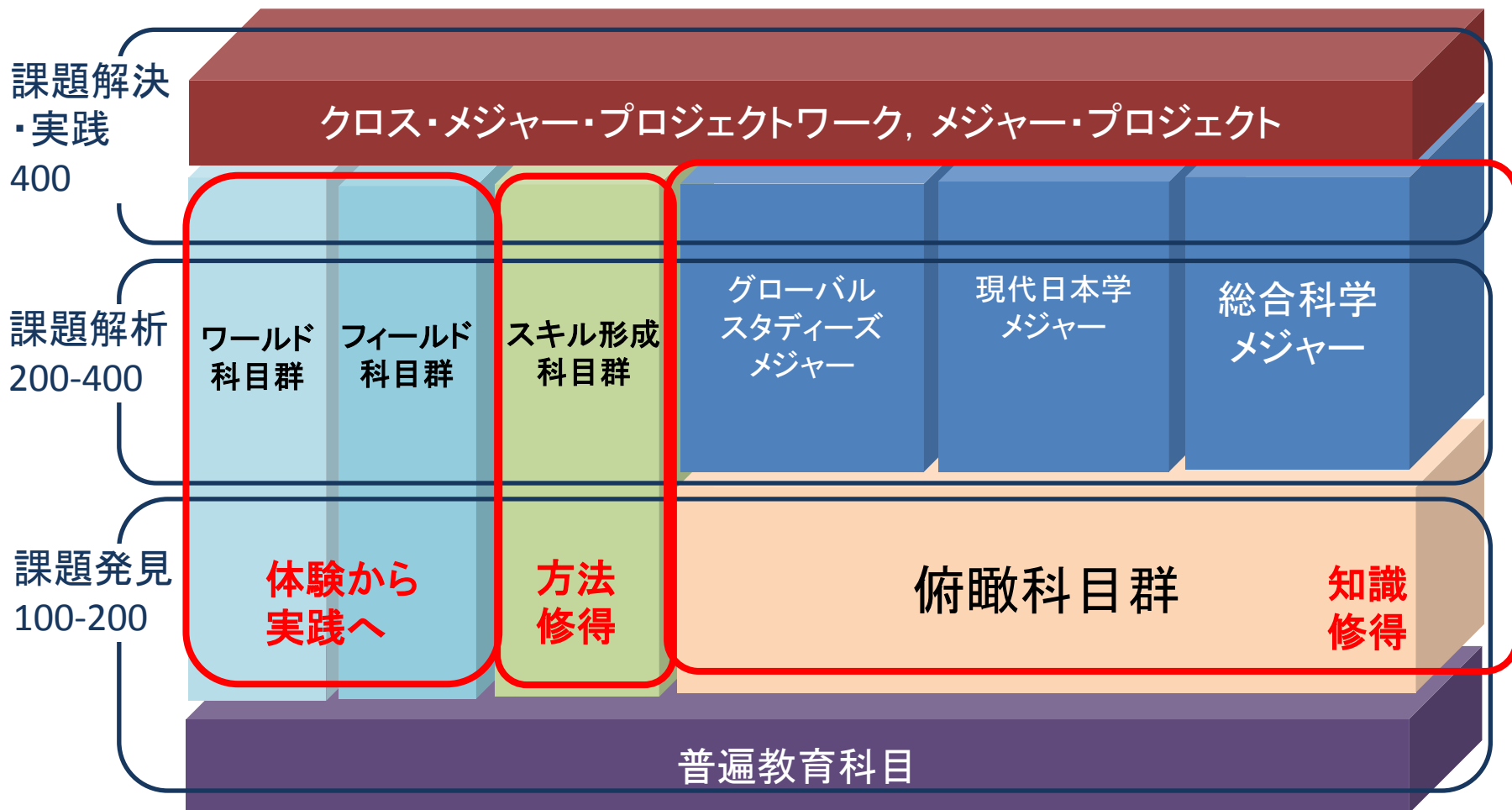
何を学ぶ？

共通科目と3つのメジャー
留学

カリキュラム構成

- 普遍教育科目：全学部共通の学問の基盤形成
- 共通科目
 - 俯瞰科目：全体を見る眼を養う
 - スキル形成科目：研究に必要な技術を身に付ける
 - フィールド科目：現場で学ぶ、現場を学ぶ
 - ワールド科目：世界で学ぶ、世界を学ぶ
- メジャー科目
 - グローバルスタディーズメジャー：地球規模の課題を探究
 - 現代日本学メジャー：現代日本から解決方法を発信
 - 総合科学メジャー：文理混合の科学実践
- メジャープロジェクト：卒業研究・卒業制作・卒業論文

「知識」・「方法」・「体験と実践」の往還を通じて、課題発見・課題解析・課題解決の能力と発信力を体系的に修得



100-200番台科目で課題を発見し、200-300番台科目でメジャー科目を含み課題を解析し、400番台科目で課題解決を実践する。

1 年次

2 年次

3 年次

4 年次

俯瞰力の獲得・課題発見

俯瞰科目及び普遍教育科目により俯瞰力を獲得し、課題を発見

普遍教育科目

俯瞰科目

課題解決に必要なスキルを習得

自ら設定する課題を考察・分析・表現し、他者と協働するための基礎となる学問上の方法を習得

スキル形成科目

留学・フィールドワーク・インターンシップ・ボランティアを体験

ワールド科目により、留学※を通じて国際理解力を育成するとともに、フィールド科目により、課題発見から知識の活用や高度な課題解決等を現場で実践

※留学する時期・回数(卒業には最低1回の留学が必要。)は、学生個々の学習の必要性に応じて学生自ら決める。

ワールド科目・フィールド科目

課題解決に向けて必要な知識を選択し習得

グローバルスタディーズメジャー科目

★移住・交通・自然史 ★環境・生態・自然災害 ★国際・紛争・人道支援

現代日本学メジャー科目

★技術・産業・デザイン ★文化・芸能・スポーツ ★地方創成・社会変動

総合科学メジャー科目

★先端科学・技術・社会 ★生命・倫理・医療 ★サイエンスコミュニケーション

学生自ら設定した課題の解析・解決に必要な知識を3メジャーの科目により習得

「国際」+「日本」+「科学」の混合(ブレンド)

課題解決・世界へ発信

クロス・メジャー・プロジェクトワークにより、グループワーク等を重ねながら課題設定し、メジャー・プロジェクトにより、複数の教員の指導の中でプロジェクトを完成し、それを世界へ向けて発信していく手法・技法を学習

クロス・メジャー・プロジェクトワーク
メジャー・プロジェクト

学位(学士(国際教養学))・卒業

公務員・企業等の国際部門や企画部門等に就職

大学院の様々な分野に進学

科目例：共通科目



俯瞰科目群

国際教養学入門
人文社会科学基礎
自然科学基礎
生命科学基礎

グローバルイシュー演習
現代日本課題演習
総合科学コミュニケーション演習

フィールド科目群 ワールド科目群

フィールド・スタディ
地域PBL型演習
海外派遣プログラム

スキル形成科目群

学術英語
研究方法論
史資料分析
プレゼンテーションメソッド

質的調査法
量的調査法
最新情報処理演習

科目例: メジャー



グローバル スタディーズ

移住／交通／自然史
・アセアン地域論
・ヨーロッパ社会論

環境／生態／自然災害
・都市住環境論
・環境マネジメント制度論

国際／紛争／人道支援
・国際組織論
・国際人権論

現代日本学

技術／産業／デザイン
・サービスデザイン
・プロモーションデザイン

文化／芸能／スポーツ
・クールジャパン論
・ポピュラーカルチャー論

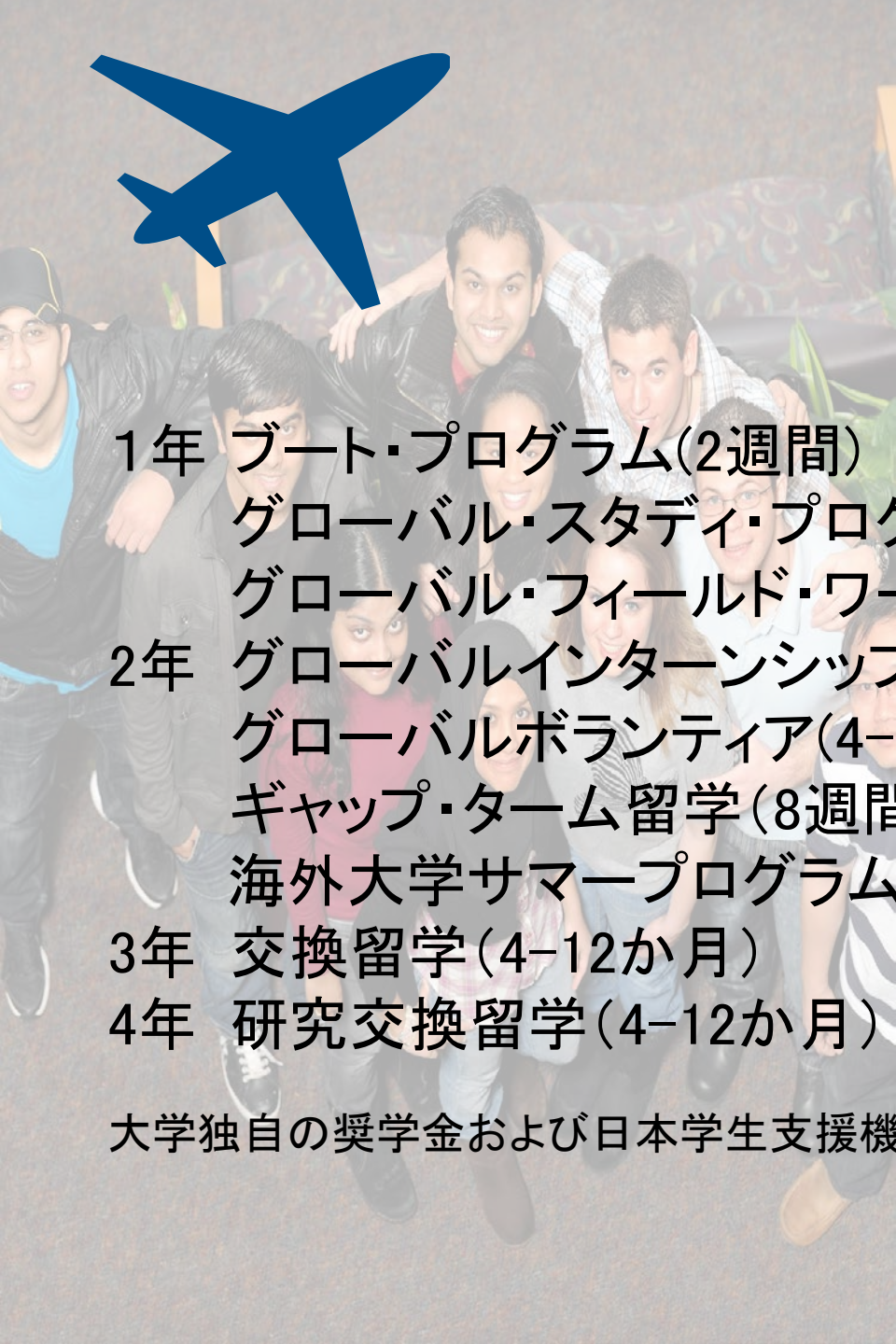
地方創生／社会変動
・地方創生論
・人口減の社会論

総合科学

先端科学／技術／社会
・経済政策と科学技術
・メディア論

生命／倫理／医療
・生命倫理
・ユニバーサルデザイン

サイエンスコミュニケーション
・サイエンス
コミュニケーション論
・サイエンスカフェ

- 
- 1年 ブート・プログラム(2週間)
グローバル・スタディ・プログラム(2-3週間)
グローバル・フィールド・ワーク(2-3週間)
 - 2年 グローバルインターンシップ(4-6週間)
グローバルボランティア(4-6週間)
ギャップ・ターム留学(8週間)
海外大学サマープログラム
 - 3年 交換留学(4-12か月)
 - 4年 研究交換留学(4-12か月)

大学独自の奨学金および日本学生支援機構(JASSO)などの各種奨学金があります

海外留学の基本的な考え方

- 早期体験の重視 (1～2年次の留学を促す)
 - 2年次の第2タームに必修授業を置かない。
- 社会的学びの国際化:
 - 語学や専門だけでなく、ボランティア、インターンシップなど海外における社会的学びを重視し、社会的課題を現場で解決。
- フィールドワーク・専門分野研究留学の充実
 - 段階化・体系化したプログラム。
- テラーメードの留学
 - 一律ではなく各人の志向に応じた留学⇒教員の指導とSULAの助言

7. 想定される進路



国際公務員

ソーシャル・アントレプレナー(社会起業家)

エンターテインメント&アート・ディレクター

ITデザイナー

グローバル企業プロデューサー

大学院進学

世界が注目する「日本」の良さを発信し、日本代表として活躍

College of Liberal Arts and Sciences

国際

教養

学部

JOIN US!

